



1998.7
第24号

大学婦人協会東京支部

新支部長挨拶

「新しい事務所に」

どうぞお立ち寄りください」

東京支部長 高井敬子



まばゆいばかりの新緑の候に前支部長から重任を引き継ぎ、早くも七月の声を聞くに至りました。

東京支部新委員会もフレッシュなメンバーに加わっていただき、今までのパワフルであたたかい雰囲気そのままだけに、これからの二年間を一同協力して過ごしていきたいものと願っております。

会員の増員を図るということについて、四月十八日の総会の折にも言及しましたが、皆様にお願いがございます。例えば、現会員がそれぞれ一人ずつ新会員をご推薦くだされば、それなりの成果が得られるの

ではないかと存じます。更に入会される方にお友達を誘っていただければ、心細きもなく、催しにも参加なさりやすいのではないのでしょうか。それには、せっかく入会して何も得るところがないようでは申し訳ありませんので、何とか魅力ある企画を立て、講演や見学などにも積極的に参加していただけるよう、私どもも知恵を絞って取り組んでまいりたいと考えております。

昨年来、巷には忌わしい事件が絶えず、特にこのところ十代の子供達の問題が取り沙汰されております。ほんの一部の問題という意見もありますが、やはり永年にわたって何かが欠落していた結果が、こういう形で現れたと思えません。良く育った若者達も大勢いることを考えれば、何とかこの辺で、私どもにできることはないものでしょうか。

二十世紀最後の二年間を、大学婦人協会東京支部として意義ある二年間にいたしたく、全国各支部のご発展も祈りつつ、皆様との良き交流を願って、ご挨拶とさせていただきます。

講座・見学についてはまたご案内をいたしますので、お誘い合わせのうえ、ふるってご参加くださいませ。

東京支部総会報告

前書記 百束礼子

一九九八年東京支部総会は、四月十八日（土）に虎ノ門の国立教育会館で開催された。

支部会員総数五七四名中、出席者数五十一名、有効委任状二三八通で総会は成立。

比留間支部長の挨拶に続き一九九七年度の事業報告、決算報告及び会計監査報告が滞りなく行われた。次に一九九八年度事業計画案、予算案が示され承認された。

次いで新支部長、新役員、新委員の紹介があり、高井新支部長は挨拶の中で支部会員増加に向けての協力を要請した。

次に比留間支部長より、支部長選出に際して特定の大学出身者の持ち回りではなく、広い範囲から選考してはとの提言がなされた。

最後に山本JAUW新会長が、いろいろの人がいろいろな立場で活躍に活動してほしいと挨拶された。

記念講演はシェイクスピアの権威小田島雄志氏にお願いした。

※ ※ ※

1997年度大学婦人協会東京支部決算報告書

1997/4/1～1998/3/31

1998年度予算

1998/4/1～1999/3/31

収入の部

(単位:円)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考	予算額	備 考
I 会 費 収 入	1,500,000	1,488,000	-12,000	496口	1,500,000	500口
II 基本財産利息収入	30,000	54,763	24,763		30,000	
III 運用財産利息収入	1,000	1,291	291		1,000	
IV 寄 付 収 入	350,000	345,939	-4,061	バザー、寄付	350,000	バザー、寄付
V 雑 収 入	35,000	33,400	-1,600	¥400×31人+ ¥3,000×7人 入会還付金、賛助会員還付金、他	23,000	入会還付金、賛助会員還付金
当期収入合計	1,916,000	1,923,393	7,393		1,904,000	
前期繰越金	929,620	929,620	0		982,405	
収 入 合 計	2,845,620	2,853,013	7,393		2,886,405	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考	予算額	備 考
I 管 理 費	1,080,000	955,940	-124,060		1,060,000	
(1) 備 品 費	20,000	3,486	-16,514	印鑑	20,000	
(2) 消 耗 品 費	120,000	97,693	-22,307	コピー代、封筒、他	120,000	コピー代、封筒、他
(3) 印刷製本費	50,000	41,820	-8,180	支部お知らせ、他	50,000	支部お知らせ、他
(4) 通 信 費	400,000	331,321	-68,679	支部お知らせ・ともしび・本部会報	320,000	支部お知らせ・ともしび・本部会報
(5) 交 通 費	70,000	63,040	-6,960		70,000	
(6) 事務所費	100,000	100,000	0	本部へ分担金	120,000	本部へ分担金
(7) 事務手当	320,000	318,580	-1,420	事務員給料一部負担、他	360,000	事務員給料一部負担、他
II 運 営 費	145,000	130,085	-14,915		150,000	
(1) 総 会 費	85,000	71,455	-13,545	会場費、マイク代、菓子代	90,000	会場費、マイク代、菓子代
(2) 委 員 会 費	60,000	58,630	-1,370		60,000	
III 事 業 費	700,000	584,583	-115,417		700,000	
(1) 一 般 事 業 費	600,000	484,583	-115,417	ともしび(2回)講演会・本部へ寄付	600,000	ともしび(2回)、講演会、他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金指定寄付	100,000	国内奨学金指定寄付
IV 雑 費	20,000	0	-20,000		20,000	
V 予 備 費	20,000	0	-20,000		20,000	
VI 基本金積立	200,000	200,000	0	貸付信託	200,000	貸付信託
当期支出合計	2,165,000	1,870,608	-294,392		2,150,000	
次期繰越金	680,620	982,405	301,785		736,405	
支 出 合 計	2,845,620	2,853,013	7,393		2,886,405	

1998年3月31日現在

基本金財政状況:貸付信託 ¥3,760,000……三井信託銀行新宿西口支店

運用財政状況:繰越金 ¥982,405 普通預金 ¥935,150……三井信託銀行新宿西口支店

現金 ¥47,255

会 計 山村 敬子

溝渕 ひろ子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いないことを証明いたします。

1998年4月13日

会計監査 松沢 美仁子

峯川 正子

会計監査

(五十音順)

● 松沢美仁子 (津)

● 比留間淑乃 (日女)

● 山村敬子 (日女)

● 溝渕ひろ子 (聖)

● 三浦由紀子 (茶)

● 松本佳子 (茶)

● 松浦照世 (実)

● 福田満代 (奈女)

● 西尾順子 (東女)

● 時枝玲子 (放送大)

● 酒井敏子 (大女)

● 小坂順子 (日女)

● 小池朋子 (津)

● 紅林みのり (大女)

● 河井尚子 (東女)

● 加藤百合子 (実)

● 奥山ふみ子 (日女)

● 岩田玲子 (武蔵音)

● 有本玲子 (聖)

● 山崎邦子 (東女)

● 木村和子 (実)

● 縄田真紀子 (奈女)

● 中山律子 (奈女)

● 待場田鶴子 (大女)

● 柴崎富子 (津)

● 高井敬子 (聖)

● 支部長

● 副支部長

● 書記

● 委員

● 会計

● 書記

● 支部長

● 副支部長

● 書記

● 委員

● 会計

● 書記

● 支部長

● 副支部長

大学婦人協会東京支部
一九九八年度役員・委員名簿

記念講演 (98・4・18)

「シェイクスピアの女性像」

講師

小田島雄志氏



シェイクスピア

アと言え、小

田島雄志。絶妙

なジョークを交

えてのトークに

爆笑の連続、難解な古典文学が身近に感じられ、内容が豊富で一時間半は束の間であった。

先ずアブローチとして、「シェイクスピアが体験した周囲の女性達」

「戯曲に登場し彼自身共感したキャラクターとしての女性像」戯曲中の台詞に表れた女性像」これら三点を基調として、さまざまな戯曲の登場人物を挙げ説明された。

彼が生まれて初めて接した女性、母メアリー、妹ジョーン、十八歳で結婚した八歳年上のアン・ハサウェイ、唯一の自伝といわれる「ソネット集」中の「ダークレディ」(愛人という実証はないが)妻との不仲故に悪妻説があり、劇中には人妻不信の台詞が多い。

役者兼劇作家として認められた二十五、六歳から四十歳後半に至るまで、人間的に成熟し人生観が変わる

につれて、劇中のキャラクターも変容していく。当時、女役は少年が演じていたので演技力の限界もあり、女性の心理(内面的表現)が描き切れず、男性の行動(外面的なもの)が強調された。

初期の約十年は主に、喜劇と史劇を書いている。例えば「ヴェニスの商人」「空騒ぎ」などの喜劇では、恋人としての女性はイニシアティブを取っている場合が多く、悲劇「ハムレット」「マクベス」などでは、行動面から内面的世界へと関心が移り、男性が主人公、女性は傍役に回っている。後期作品「テンペスト」「冬物語」などになると、親子の葛藤、因習的道德的な象徴に反発しながら自己主張し成熟していく過程で、男女



シェイクスピア生家

が対等に描かれ、中世メルヘン、ロマンスの世界に達する。

女性賛美に對して男性不信の言葉があるが、その逆も真なりで

アン・ハサウェイ生家



絶対的なものではなく、相対的なものであると言われた。

いつの時代にも共感と呼ぶ人間模様。原書(律文・詩形・散文)を読んでこ

そ、シェイクスピア文学の真髄に触れることができるのであるが、それを読解するのは至難の業、せめて、小田島氏訳書を読むか、映画や演劇を観て興味を深めてゆきたいと思う。

(文・写真 尾上夏子)

講演 (98・6・13)

「オーストリア紹介」

講師 ヴォルフガング・ベントツ氏

雨の表参道をウイメンズプラザへ。

青のストライプのシャツ姿で現れた

ベントツ氏は、実にスマートでチャー

ミング。ソフトな話しぶりにすっか

り聴き入り、二時間は短かった。

国際会議を念頭にウィーンとグラーツの案内のあと、綿密な資料をも

とに、ローマ時代から現代に至るオーストリアの歴史を、逸話を交えて話された。神聖ローマ帝国、ハプスブルク家、マリア・テレジア……昔、世界史で聞いた名前が蘇ってくる。

七カ国と国境を接するオーストリアの、血ぬられた歴史。ヒットラードイツとの併合で、第二次大戦時はオーストリアの名はない。戦後十年間の苦難の四国支配時代を生きぬいた祖母上の言葉が心に残る。ハイドン作曲の美しいドイツ国家も、併合前はオーストリアの国歌であった。

いま、ゴシック様式のステファン教会を中心に歴史的建造物が並び、ウィーンは憧れの都だ。名物のワインもカフェも、シュニベルトやベートヴェンが愛したものという。

ウィーン生れのベントツ氏は在日十六年。現在、東京大学で物理学を教えているが、ピアノの名手でもある。次回はぜひ、魅惑のトークと演奏を聴かせていただきたい。

オーストリアを身近に感じた、内容のある講演だった。(松本佳子)

《お願い》

98年度会費を続々と送っていただき嬉しい悲鳴をあげています。まだの方は、なるべくお早目をお願いいたします。(東京支部会計より)

支部各係からのメッセージ

○会員係

東京支部会員・賛助会員のデータをUpdateに保ち、支部からのお知らせや「ともしび」をもれなく皆様のお手元にお届けできるようにすることを、第一の仕事としています。

現在データはコンピュータで管理され、そのコンピュータも使いやすくプログラミングされていますので、変更や訂正は迅速かつ簡単にできます。パソコンやワープロに興味があれば、使うことに自信がない人でも楽しくできるというわけです。更に、有効活用したいときには、専門家にプログラミングを依頼できます。

また、皆様からの変更や訂正を速やかに行うためには、本部の会員部や事務の鈴木さんとの緊密な連絡も欠かせないことの一つです。

会員の皆様も住所変更などありましたら、東京支部宛必ず「一報ください」をお願いします。
(チーフ 溝渕)

○講座・見学会

年間四、五回の、講演会や見学会を開催するべく多くの方に参加していただき、勉強・親睦の場を提供しています。通常五百円の参加費は、

支部活動費の一部となっています。

昨年度は福島瑞穂氏、佐々木知子氏、長澤信子氏を招いての講演会、東京港めぐり、瀧波ガラス工場への見学会を開催いたしました。

今年度はこれまでに、ヴォルフガング・ベント氏を招いてのオーストリアの話（六月十三日）と、テーブルを飾るフラワーアレンジメントの講習会をいたしました。今後の催し物についても、その都度皆さんにお知らせが届きます。勉強と親睦を兼ねて多くの皆さんのご参加をお待ちしています。
(チーフ 西尾)

○バザー係

会員の皆様には「新春のつどい」や支部総会の折にご協力いただき、お礼申し上げます。バザー係では皆様から情報をいただいているいろいろな商品を仕入れることにより、少しでも売り上げを多くしていきたいと思っております。支部でのバザー収益は、「国内奨学金」など、皆様のお役に立てるようにしています。

新しい商品の情報、耳よりな話がありましたら、バザー係にご連絡ください。
(チーフ 山村・小坂)

○サークル係

古くから活動している漫步くらぶをはじめ、「英語講座」「源氏物語を読む会」「楽しい俳句会」と、いまま京支部には四つのサークルがあります。委員でなくても支部のメンバーが顔を合わせることは、いろいろと便利な点もあります。これはというご推選のテーマがありましたら、新設も検討いたしますのでお申し出くださいませ。
(チーフ 柴崎)

○「ともしび」係

支部の活動状況を詳しくお知らせするため、年一回（三月と七月）、「ともしび」を発行しています。

また最近では、訪問記事「高等教育と女性」―その社会的還元シリーズ―や、投稿紙上討論「選択制夫婦別姓」「女性が働き続けるために」など、セミナーのテーマに沿って特集を組んだりしました。

「ともしび」は皆様の会報です。皆様の声を反映したいと願っています。ご意見、ご感想、また支部として今後取り組んでほしいテーマなど、お寄せください。また、日常ふと感じたこと、疑問に思ったことなど、皆様の自由な声の広場を設けたいと考えています。
(チーフ 松本)

事業報告・予定

4・18 東京支部総会
於国立教育会館

記念講演「シェイクスピアの女性像」小田島雄志氏

6・13 講演「オーストリア紹介」
講師 ヴォルフガング・ベント氏

7・1 「ともしび」第24号発行

7・8 バスツアー（財務主催）
成田山・国立歴史博物館

9・19 JAUWセミナー
テーマ「女性のエンパワーメント」（本部主催）
於戸塚日生ビル

10月 講演「ガンの原因と解決法」
（伝承医学の見地より）
講師 小橋規實男氏

11・14 観劇「つばくろは帰る」
新橋演舞場（財務主催）

1・9 新春のつどい（本部主催）
於京王プラザホテル

7月以降の事業は、具体的に決まり次第、支部からの「お知らせ」でご案内します。

サークル紹介

①東京散歩くらぶ

半日くらいの行程で都内や近郊を散策します。年に三、四回。希望者だけにご案内を出しています。

②英語講座

日時・第一第三金曜日

午前十時～十二時

場所・大久保地域センター三階

費用・一万円(十回分)

定員・十名(気楽にご参加を)

講師・松本節也元法政大学教授

テキスト・(五月十五日から)

イギリスを築いた人びと

ジョン・ドゥーギル著

著名な十人の英国人を紹介、当時の歴史・政治・社会・文化にも触れた外国人学習者向けのテキスト。先生が註釈や資料もご用意くださいます。気楽に話し合える楽しい集まりです。

①②ともに、

問い合わせ先・峯川正子(☎〇三

三六八四―八三〇七)

③楽しい俳句会

一昨年九月、作句は初めてという会員ばかり十三名で発足した俳句の会。講師の熱心なご指導で、一回ごとの上達を実感しています。希望者

も増え、既に定員に達しました。

兼題といつて、予め出されていた季題を一句、当季雑詠を一句、計二句を投句します。清記(全句清書、選句、披露(選ばれた句を読み上げる))の順に句会をすすめ、最後に講師から全句についての丁寧な講評をいただきます。終了とします。

仲間からの思いがけない解釈や批評に作句者自身が驚くことも間々あります。自作の句が共感される嬉しさや新しい技法を学んだ喜びは大きく、「座の文学」の醍醐味に浸る、毎月第三水曜日の午後の二時間です。

講師・柴崎富子

場所・大学婦人協会事務所会議室

問い合わせ先・海老原典子(☎〇三

一三三五一―五〇五六)

④源氏物語を読む会

はやいもので、九月でこの会も三年目に入ります。現在小学館版(六冊本)の二冊目で「葵の巻」です。

坂上先生の独自の観点からの解説は新鮮で魅力的。ひととき雅びの世界を遊泳し、現実には立ち返っては素朴な疑問や感想を出し合って、この会ならではの解釈を付け加えたり、楽しくやっています。朗読の順番待ちで一喜一憂することも、学生時代

にタイムスリップしたよう。全巻読了をめざすメンバーで、現在満席状態です。

日時・毎月第三第四水曜日

午前十時半～十二時半

講師・坂上栄美子

場所・大学婦人協会事務所会議室

問い合わせ先・平田宏子(☎〇四七

一四三―一五七三)

〇読書会の解散報告

長い間続けてきた読書会を、三月末をもって解散いたしました。少し残念な気もしましたが、参加会員の減少には勝てませんでした。

最後まで続けて参加くださった方々と、楽しい会の思い出ができたことはとても幸せです。

最後は近松物語を読み、シェイクスピアや数々のオペラを通して、人間は悲恋が好きなのかしら、などという話に発展したりして、読書の楽しみを共有できましたし、人間は洋の東西を問わず、同じ事を芝居として楽しんだ事実の確認もいたしました。

解散はしましたが、一部の方々とはいこれからも時代の変化を書物から学び続けようと話し合っております。

長い間のご協力、ありがとうございました。

(山田環子)

雑感 武蔵野に暮らす

畑仕事や庭の草引きの手を休め、一息つけば大学のキャンパスが目の前に広がる、そんな都市郊外の農作地域に暮らす女性達の話。

AさんもBさんもCさんも……皆、長男の嫁達である。舅姑につかえ、夫と共に農業を営み、家事、育児、さらには夫の弟妹の世話まで見事にこなしてきた人達ばかり。

昨今はかつての大変さは緩和され、たが、寝たきりや障害持ちの親達を看ている人も多い。したがって寄り合いなどは格好のストレス発散の場となり、苦勞話に花が咲けば会を締めくくるのも容易ではない。

彼女達の「仕事の手」は実に速い。そして上手に時間を作り、祭事や伝統行事への参加協力を惜しまない。また、趣味、旅行、観劇を楽しみ、自分磨きにも積極的である。この地の産物は梨、ウドに代表されるが、新しいものにも取り組み巨峰やズッキーニまで作ってしまう一方、郷土食を伝える活動にも熱心である。彼女達の作る「手打ちうどん」や「ゆで饅頭」は絶品である。

「全く、彼女達にはかなわない」これが実感。

(三浦由紀子)

「ともしび」の歩み

―誕生と特集号―

ともしび初代編集長

若井綾子

十余年も前のこと曖昧な部分もあるが、当時のことを思い出すままに書いてみようと思う。

当時支部委員会で、支部活動を委員だけでなく一般会員に拡げる一策として、会員の要望を知る目的でアンケート調査を行った。その回答の中に「支部独自の会報発行を望む」という意見があり、これが採択されて'87年（昭和六十二年）七月、支部会報第一号が発行されることになった。

「ともしび」誕生である。

当時委員会から編集を頼まれて、浅田、猪狩、岡庭、津森、羽山、八木の皆様に編集委員をお願いし、予算内での内容編集など会報に関する一切を委託されて発足、七月と二月原則の年二回発行であった。誌名も、幾つかの中から「ともしび」が選ばれ、シンボルマークのランプとも照応するものとして併用、表紙が作られた。題字は再度の修正を経て現在のものに、ランプのデザインも途中で修正した。

発足の趣旨が「支部活動をアピールして多くの会員の参加を得る」とにあったので、（一）支部活動の詳細を記載し活動状況がよく解るようにする、（二）実際に参加した一般会員に具体的に記事を書いてもらう、（三）会員の意見を掲載する声のひろばを設ける、（四）定例読書会、俳句会への参加の呼びかけ、などが柱だったと思う。けれど期待した声欄への投稿は殆どなく、平常時の会員相互の交流の難しさを痛感した。

この前後の支部活動は活発であった。二、三申し上げると

○岩波ホールを借りて「薄墨の桜」「江戸の地図」を上映したこと。ホール支配人高野悦子氏と「薄墨の桜」の羽田澄子監督にお話しいただき、百名を超える参加者で好評だった。

○国立博物館東洋室長杉山二郎先生のお話とご案内による見学会も、魅力あるものとして評価された。

○オレゴン大津教授のマクレン陽子・松岡氏（漱石のお孫さん）に記事を依頼。その後交換学生について来日されたのを機にお話しただいたこともあった。

私はその頃、セミナーや新年懇親会などで先輩方から、JAUW創立当時の状況やご苦労をきき強い感銘

を受けた。と同時に、このままでは、時とともにこれらが忘れられてしまふのではないかとという危惧も抱いていた。本部は勿論、各支部がそれぞれ抱えている発足当時の苦心談やエピソード、忘れてならない先人達の足跡を一つにまとめて、今、残しておかなければ、という強烈な思いが、編集の場から委員会へ伝わって賛同を得、実現することになった。第35回通常総会が東京で開催された時の、「ともしび」第11号記念特集号（'92年3月）の発行である。

手に取ればピンクの表紙の小冊子であるが、これは大変な仕事だった。当時の編集委員は津森、斎藤、阿南の皆様だったが、年表や会報を辿り切抜きはり合わせる細かい作業から全体の構成まで、実によくやってくださった。一方、全国の支部へ手紙や電話での依頼もすんなり通ることは稀で、高齢で病床にある方、既に亡くなった方、また健康上ご家族が執筆を許されない方もあった。その中で、九十四才というご高齢の、初代会長藤田たき先生が、お体の不調にもかかわらず「創立当時の思い出」とともに貴重な二つのエピソードを遺してくださったのは、先生亡き今、まことにありがたく、悲しい。

昨年JAUW五十年史の編集をお手伝いして支部を担当。各支部へ連絡した折、現在の若い支部長が、「先輩にうかがったが、東京支部特集に書いたの今では忘れた。あれを見てくださいとのことですよ」という返事。また別の支部では、「自分達も知らない事だからあったら頂きたい」ということで特集号を送付、大変喜ばれた。あの時うかがっておいでよかったです！と思うとともに、改めて月日の流れを感じたことである。

軽井沢のこと。二代会長菅支那子先生と、夏期大学でDonald・キーン氏の源氏を一緒に聴講したとき、お茶の水女子大学学長嶋山政道先生が、人気のない道を黙々とジョギングしていらしたお姿もなつかしい。お二人とも、女子高等教育に携わりJAUWに大きな期待を寄せておられた方々である。

大きな足跡を残された、藤田先生はじめ先輩の皆様方に心からの尊敬と感謝を捧げるとともに、現在の有能な会員の方々に大いに期待したいと思う。そうして、おもしろい「ともしび」を作ってください。



第41回通常総会報告

前副支部長 藤枝史子

新緑と五分咲きの桜に迎えられ、第41回通常総会は金沢都ホテルを会場にして、四月四日の午後より支部長懇談会と評議員会、夕刻六時より懇親会が開催され、五日午前九時より通常総会が開催された。

懇親会は、加賀百万石の歴史と伝統を偲ばせる日本舞踊と尺八演奏に始まり、ご馳走と歓談の合間には、夏のI F U W国際会議の開催地グライツの紹介ビデオの上映などがあり、金沢支部の皆様の深いご配慮の感じられる、和やかで楽しいひとときであった。

五日の総会には出席者二二一名（内東京支部より六十七名、参加支部十二支部）で、開会の辞の後、逝去会員のご冥福を祈り全員で黙禱。続いて、丸山庸子会長を議長

として、総務・各委員会・支部などの報告、審議、懇談が行われた。

議事は総会報告書に基づいて順調に進行したが、大学婦人協会の名称と、総会月日の繰り下げについては結論が出ず先送りとなった。

また丸山会長より、今年度のセミナーのテーマ「女性のエンパワーメントー社会変革のために」についての説明と、新たに設定される守田科学研究奨励金授与に関する話や、青木怜子I F U W第二副会長より、グライツ国際会議へより多くの会員の参加を呼びかける話などがあった。

最後に次期総会開催地の岡山支部長より開催承諾の挨拶があり、総会は無事終了した。

金沢支部主催

〈能登・輪島コース〉

通常総会終了後、二階建てバスで午後五時出発。参加者五十四名。二時間後到着したホテルの晩餐は、能登輪島の凝った郷土料理であった。翌日はまず輪島漆器会館を見学した。肩書の多い福久清一氏から、塗りと磨きの繰り返し、漆器の製造工程について詳しい説明があり、人の手に触れられることを好む漆器を、日常生活にせいぜい役立てるよ

うにとの、ご要望があった。

夏祭りに担ぐ華やかなキリコが立ち並ぶキリコ会館で、祭りの半てんを借り着し、一同記念撮影をした。

石川県輪島漆芸美術館では、中世以降現代に至る、全国からの漆芸の逸品の美に魅せられた。

順調に金沢駅に帰着。同行してお世話くださった金沢支部の安原和子氏他三名の会員に感謝し、解散した。

(川田ひろ)

〈金沢市内見学〉



バスにて、初め金沢港大野にある「からくり記念館」を見学。丸屋根ガラス張天井の内側に障子をはめ込み、展示室は柔らかな彩

光で包まれ和やかな雰囲気を感じていた。そのほつとした空間に、江戸時代の遊び心を表現した人形や玩具が並べられている。外国の技術を取り入れながら日本を表現する創意工夫にあふれる職人技に、息をのんだ。

次に足を運んだのは「金沢卯辰山工芸工房」。金沢美術工芸大学学長北出不二雄氏の退官記念に、金沢の伝統工芸の継承発展と、新しい文化の飛翔をめざして建てられたという。そこは卯辰山の桜のトンネルの先にあった。北出氏の陶芸展を見る。

午後は兼六公園へ。花の盛りを迎えた庭内の成蹊園には古代雛が飾られ、一際ゆかしさを添えていた。近江町市場に寄り鮮魚を土産に帰宅する。

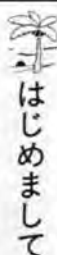
(前田淑子)



大学婦人協会第41回通常総会



大学婦人協会能登輪島ツアー 平成10年4月6日於キリコ会館



「今年度からの新委員です。どうぞよろしく」

有本玲子（聖）

今春やつと四年間の本部でのお手伝いが終わり、再び東京支部委員にしていた。初心にかえり、明るく、楽しく、有意義な本来のボランティア活動ができれば、と願っています。

岩田玲子（武蔵音）

こんにちは。今回から「ともしび」の編集に参加させていただくことになりました。慣れぬことでドキドキしていますが、先輩方に刺激をいただきワクワクもしています。どうぞよろしく。

奥山ふみ子（日女）

初めてこの会に参加をさせていただきました。何もわからない状態ですが皆様についていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

加藤百合子（実）

伝統ある大学婦人協会に入会させていただき嬉しく思います。子育て

も終わり、現在は地域活動に参加し日々楽しんでおります。これからは、この会でいろいろな学ばせていただきたいと思っています。

河井尚子（東女）

この頃、漸く人生が見えてきた気がする。とともに、多少の事には驚かなくなっている自分に淋しさも感じています。この度、委員にお誘いいただき、新たなステップを踏み出す良い機会かと思ってお受けしました。どうぞよろしく。

紅林みのり（大女）

昨年九月にお仲間に入れていただきました。何度か会に参加し、毎回趣向を凝らした企画に楽しい時間を過ごしています。素敵な方々とも出会う機会が多くなり喜んでいきます。

小池朋子（津）

新しい事務所での新しい出会いに緊張しています。先輩の皆様方の溢れんばかりのエネルギーを分けていただいて、自分自身をもっと成長させたいと思っています。

酒井敏子（大女）

大抵の事は自発的に選ぶこと

が多いのだが、今回の入会と委員引き受けは、流されてといった感じが強い。びっくり箱を開ける時のような期待と不安が入り交じった気持ちでいる。

福田満代（奈女）

「何でも見てやろう」世代の私は、何にでも参加します。新しい仲間から沢山のプレゼントが頂けますように、そして、私も何か差し上げるのができますように願っています。

松浦照世（実）

私は、実践女子大学五一年度の卒業です。友人より大学婦人協会の活動のお誘いをいただき、皆様のお仲間に入れていただくことになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

三浦由紀子（茶）

受身の側から少しでもお役に立てる側に、というよりも、素敵な先輩達からのたくさんのおい刺激をと、期待してしまっている私です。足を引く張らぬよう努力いたします。

訂正

23号の新入会員の氏名に誤りがありました。 萩原寿子→萩野寿子

角田史代→角田史代 お詫びして訂正いたします。

編集後記



五月から雨つづきのまま梅雨に入った。深い緑の葉陰に沙羅双樹が白い花をのぞかせ、アジサイが日増しに鮮やかになる。美しい季節だが、いま地球上はあちこちで、生態系がくるいだしているという。世界中騒然として不安の募る昨今。

支部委員の大幅な交代で、ともしびも四人のフレッシュ部員を迎えた。幼な子のような真剣な眼差しに、新米チーフは大変励まされた。

特集記事がなく比較的紙面にゆとりがあったので、新入会員のために、支部の組織や活動を少し詳しく載せた。ご多忙の中、心のこもった原稿を書いてくださった、初代編集長の若井綾子さん、ほかの皆さんに、厚くお礼申し上げます。次号に向けて、皆さんの声をお寄せください。（ま）編集に携わり、今まで何となく見ていた新聞、雑誌を、違った視点で読むようになりました。また、作るこの大変さと楽しさを、同時に味わうことができました。

(二)

ともしび 二四号 発行日 一九九八年七月一日

発行 社団法人大学婦人協会東京支部

〒160-0017 新宿区左門町十一番六—一〇一

ともしび編集係

Tel 〇三三三三三八二一八八二
Fax 〇三三三三三八二一八八九
印刷 タナカ印刷